

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 25 年 1 月 10 日 (2013.1.10)

【公開番号】特開 2011-107615 (P2011-107615A)  
 【公開日】平成 23 年 6 月 2 日 (2011.6.2)  
 【年通号数】公開・登録公報 2011-022  
 【出願番号】特願 2009-265228 (P2009-265228)  
 【国際特許分類】

G 0 3 G 5/00 (2006.01)

G 0 3 G 5/14 (2006.01)

【 F I 】

G 0 3 G 5/00 1 0 1

G 0 3 G 5/14

G 0 3 G 5/14 1 0 2 B

G 0 3 G 5/14 1 0 2

G 0 3 G 5/14 1 0 1 D

【手続補正書】  
 【提出日】平成 24 年 11 月 15 日 (2012.11.15)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

支持体上に中間層および感光層をこの順に形成して電子写真感光体を製造する方法において、

下記条件を満たすシリカ被覆酸化チタン粒子、樹脂、および溶剤を用いて中間層用塗布液を調製する工程、および

該中間層用塗布液の塗膜を形成し、該塗膜を乾燥させて該中間層を形成する工程

を有することを特徴とする電子写真感光体の製造方法：

(条件) シリカ被覆酸化チタン粒子の含有量が 2 . 5 質量 % である水分散液の電気伝導度が、 $50 \mu S / cm$  以上  $200 \mu S / cm$  以下である。

【請求項 2】

前記シリカ被覆酸化チタン粒子が超音波により洗浄処理されたシリカ被覆酸化チタン粒子である請求項 1 に記載の電子写真感光体の製造方法。

【請求項 3】

前記シリカ被覆酸化チタン粒子が、アルミナでは被覆されていないシリカ被覆酸化チタン粒子である請求項 1 または 2 に記載の電子写真感光体の製造方法。

【請求項 4】

前記シリカ被覆酸化チタン粒子が、アナターゼ型酸化チタンの粒子をシリカで被覆してなる粒子である請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の電子写真感光体の製造方法。

【請求項 5】

前記電気伝導度が、 $50 \mu S / cm$  以上  $100 \mu S / cm$  以下である請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の電子写真感光体の製造方法。

【請求項 6】

前記樹脂が、アルコール可溶性のポリアミドである請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の電子写真感光体の製造方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

すなわち、本発明は、支持体上に中間層および感光層をこの順に形成して電子写真感光体を製造する方法において、

下記条件を満たすシリカ被覆酸化チタン粒子、樹脂、および溶剤を用いて中間層用塗布液を調製する工程、

該中間層用塗布液の塗膜を形成し、該塗膜を乾燥させて該中間層を形成する工程を有することを特徴とする電子写真感光体の製造方法である：

（条件）シリカ被覆酸化チタン粒子の含有量が２．５質量％である水分散液における電気伝導度が、５０μＳ／ｃｍ以上２００μＳ／ｃｍ以下である。